

人生ハンド仏句

千の風と魂

住職 谷川寛俊

歌手秋川雅史という方が歌っている「千の風になって」が大ヒットしていてクラシックとしては初の百万枚を突破したとの事、その歌詞は「私のお墓の前で泣かないで下さい。そこに私はいません。眠ってなんかいません。千の風になつて、あの大きな空を吹き渡っています」というものでそれを聞いて妻を失った夫が「妻がいつも側で、私を見守っているような感じで、とても嬉しい」とか「私はお墓にいないと言うことなので、お墓参りに行つてもしょうがない海とか山に散骨でもした方がいいんじゃないかとおもっています」というような考えにまで広がっているようです。

実はこの歌は、亡くなった方の魂はお墓の中ばかりではなく、時間・空間を越えていつ何処にでも

第66号

H. 19. 9. 1
(毎月1日発行)

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX (0765)22-2268

メールアドレス

kokorochanthk@ybb.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/sinijoujitoyama108/>

を足す以外身じろぎもしないというのです。それが四十九日忌の納骨の日まで続きました。

つまりマリちゃんにはKさんの気配(魂)をお骨に感じ続けていたので、やがて四十九日忌も終わり分骨が仏壇にまつられマリちゃんなどの供養が続いているのです。

いかがでしょうか、よく考えてみると動物の方が我々人間様以上に恩を忘れないのではないのでしょうか。マリちゃんから大いに学ばされ考えさせられる出来事でありました。



じぶんの天命に命をかけて生きるちから